

## 1. 授業の基本情報・概要

本年度の FD シンポジウムは、地域を核として教育研究つなぐ取組がテーマであり、10月27日に次の3件の話題提供があった。

[1] 佐藤 栄作 『坊っちゃん』<sup>1</sup>のことなんて、何も知らなかった

[2] 中野 広輔・榎木 暢子・苅田 知則  
「標準的な教育制度ではドロップアウトする危険性が高い児童生徒に対する学習支援の拠点形成プロジェクト」

[3] 福井 一真 『つくりたいものをつくり隊』キックオフ・プロジェクト基礎的研究 I に関する取組報告

この内、[2]は組織的な取り組みがすばらしいが、本報告は授業改善につなげるために、[1]と[3]について注目したい。

## 2. 重要であると考えた点・参考になった点

[1]では「広義の充て職」なる概念の紹介があった。方言を専門にして国語教育講座に赴任したが、その職に就いたため松山坊っちゃん会<sup>2</sup>（漱石研究会）の会長になったことを指す。それなのに、長い間『坊っちゃん』を読んだことがなかったということで話題が広がった。重要である点は、「広義の充て職」は社会的な要望であり、そのような活動をすることは地域への大きな貢献となり得るということである。

[3]では、小学校で使う工具に注目して教育方法を展開するというプロジェクトで科学研究費補助金(若手B)を獲得している課題の報告が行われた。本来の専門は(おそらく)作品制作であり、そこで培われた周辺知識を活かして小学校現場に還元できるような研究を行っている。もちろん、学部の授業でも関連した内容で指導がなされていることは容易に想像できる。作品制作にこだわり過ぎず、

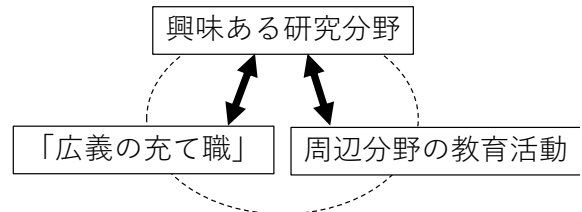


図 地域を核とした教育と研究

しかし大きく離れない教育活動のバランスが絶妙であるという印象を持った。大いに参考にしたい。

## 3. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

「広義の充て職」は必ずしも専門に関係しているとは限らないが確実に地域社会に根ざす活動へつながる。このことを、専門の周辺分野の教育活動と結びつけることができれば、地域社会を核とした教育へ結びつけることができ、また[3]で次年度に理論的な発展を目指すように、地域の活動を一般的な活動に拡張できれば実践活動から実践研究へ昇華できるだろう(図)。

## 4. 授業改善の方策・計画

カリキュラムをデザインする段階から地域課題に目を向けることができれば良いが、現実にはカリキュラムと地域課題は別々の事案で、タイミングもずれるため2つを絡めることは難しい。現実的な方法としては、すでにある授業科目の中でできるだけ「広義の充て職」の活動内容を取り入れることであろう。

報告者は、次年度に統計の演習の授業を初めて担当するので、そこで、地域課題を取り扱うことを考えていきたい。その実践を研究につなげることができるかは課題である。

<sup>1</sup> 講演前の仮タイトルでは『坊ちゃん』。他にも『坊っちゃん』の表記も用いられると紹介された。

<sup>2</sup> 資料がなかったので web ページの記載による。<http://home.e-catv.ne.jp/bocchan/>